

科 目 番 号	A-3	科 目 名	情報科学
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	院外講師	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科 目 の 目 的	コンピューターとコンピューターソフトを活用し、看護情報の処理及び分析方法を習得する。		

＜授業の概要＞

根拠に基づく看護の実践において、様々なデータを正しく理解し活用するために統計の基本的な原理を理解することが必要となる。基本的な統計手技について理解し、統計ソフトを用いた統計解析ができる基本的な能力を身につける。

関 連 既 習 科 目	情報リテラシー
テ キ ス ト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院

＜授業の展開及び内容＞

第1回：統計の基本的知識①

- ・データの収集と種類（質的データと量的データ）
- ・記述統計の基礎（要約統計量、分布の表現・比較）

第2回：統計の基本的知識②

- ・正規分布の基礎

第3回：統計の基本的知識③

- ・回帰分析の基礎

第4回：推測統計の基礎①

- ・信頼区間

第5回：推測統計の基礎②

- ・平均値・比率の測定の検定

第6回：推測統計の基礎③

- ・差の検定

第7回：推測統計の基礎④

- ・独立性の検定

評価方法

レポート課題

科目認定

成績計上の算定割合：100 点

備 考

科 目 番 号	A-6	科 目 名	社会学
対 象 学 年	2学年	実 務 経 驚	無
担 当 講 師	院外講師	単 位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
開 講 学 期	前 期	家族・地域社会などの重要な分野に関する社会学の理論・専門知識を理解することを通じて、社会学の基本的な考え方を習得する。	
科 目 の 目 的			

＜授業の概要＞

- 1) 家族、地域、メディア、自己、ジェンダーなどの分野の社会学を説明する。
- 2) それらを通じて社会学はどういうものかを理解できるようにする。

関 連 既 習 科 目	なし
テ キ ス ト	テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を用意します。

＜授業の展開及び内容＞

- 第1回 社会学とは
- 第2回 社会学の方法
- 第3回 孤人化する社会と親密性の罠
- 第4回 学校から職業へ
- 第5回 非行文化を喪失した少年犯罪
- 第6回 地域社会の崩壊と再生の模索
- 第7回 豊かな社会の格差と不平等
- 第8回 社会変動と文化現象
- 第9回 「ジェンダー・フリー」の影響
- 第10回 ネオリベラリズムと福祉国家
- 第11回 リスク社会の克服
- 第12回 21世紀社会と人類の幸福
- 第13回 グローバル化と文明の共生
- 第14回 環境問題とエコロジー運動

評価方法
筆記試験
科目認定
成績計上の算定割合：100点満点
備 考
新聞やテレビのニュース番組などに普段から触れるようにして、現代の社会現象、社会問題に関心を払うようしてください。

科 目 番 号	A - 7	科 目 名	教育学
対 象 学 年	2 学年	科 目 名	教育学
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
科 目 の 目 的	現代の教育の諸問題を教育思想の角度から議論し、教育観の基礎的思考を理解できる。		

<授業の概要>

テーマは「信頼と紐帯の教育学」。信頼と紐帯の意味を押さえた後、家庭・学校・地域社会における様々な教育・社会現象を、信頼・紐帯の視点から解釈する。これまでの調査研究において収集した数多くの調査データ（愛媛県中心）を主な教材とする。授業過程では記述・思考・表現活動を重視したアクティブラーニングのスタイルを採用する。

関連既習科目	なし
テ キ ス ト	なし

<授業の展開及び内容>

1. ガイダンス
2. 信頼・紐帯とは？：信頼、ネットワーク、規範、ソーシャル・キャピタル
3. 家庭教育（親子関係）における信頼：生活習慣、学習習慣、自律・自立心、虐待問題
4. 友人関係における信頼：いじめ、不登校、自尊感情、ソーシャルスキル
5. 教師－子ども関係における信頼：学級経営、生徒・進路指導
6. 教師同士の関係における信頼：チームワーク、ビジョン
7. 教師と管理職の関係における信頼：教員評価、組織体制づくり、学校評価
8. 教師と保護者の関係における信頼：保護者対応、クレーム、モンスター
9. 保護者相互の関係における信頼：社会教育、PTA、学級懇談会
10. 信頼と紐帯による問題解決（1）：学力向上、低学力問題
11. 信頼と紐帯による問題解決（2）：荒れる学校問題
12. 信頼と紐帯による問題解決（3）：集団登下校、安全管理、不審者対応
13. 信頼と紐帯による問題解決（4）：小中一貫、学校統廃合
14. 信頼と紐帯による問題解決（5）：危機管理、災害対策、個人情報保護
15. 信頼と紐帯による問題解決（6）：教師の多忙化、教師のストレス

評価方法	論述試験
科目認定	成績計上の算定割合　：100 点
備　考	

科 目 番 号	A-13	科 目 名	英語 II (英会話・文献読解)
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1 単位 (30 時間)
科 目 の 目 的	国際社会に対応しうる英語の基礎力と異文化理解への積極的態度を養う。 看護に役立つ英会話の基礎を学び、実際の場面でも対応できるようにする。 情報収集に役立つ英語文献等の検索・読解能力を習得する。		

＜授業の概要＞

看護の場面で使われるさまざまな状況を想定して実際に使える英語表現を学びます。会話のロールプレイや練習問題を通して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの基礎的能力を総合的に身につけることを目標とします。看護に関連する表現や語彙を定着させるため、毎回、小テストを行います。また、将来、必要に応じ医療関係の最新情報等の入手ができるように、インターネットの英語サイトの利用を実際に経験し、レポートにまとめます。ペアやグループでの会話練習の際は、積極的に参加するように心がけてください。

関連既習科目	英語 I (基礎英語)
テキスト	臨床看護英語 第6版 医学書院 必要に応じ、参考資料のプリントを配布します。

＜授業の展開及び内容＞

- 第1回 ガイダンス、医療・看護における英語使用及び英語学習の必要性
- 第2回 Chapter 1 Checking In
- 第3回 Chapter 2 General Consultation
- 第4回 Chapter 3 Vital Signs
- 第5回 Chapter 4 Admission and Orientation to the Hospital Routine
- 第6回 Chapter 5 Data Collection from Patients
- 第7回 Chapter 6 Daily Activities
- 第8回 英語サイトの利用(1)、Ch. 1 - Ch. 6 の復習
- 第9回 英語サイトの利用(2)、Chapter 7 Tests
- 第10回 英語サイトの利用(3)、Chapter 8 Procedures
- 第11回 英語サイトの利用(4)、Chapter 9 Positioning the Patient in Bed
- 第12回 Chapter 10 Bath and Comfort
- 第13回 Chapter 11 Patient Teaching
- 第14回 Chapter 12 Small Talk

[習熟度・進度等により変更の可能性あり。]

評価方法	小テスト+課題: 30% 筆記試験: 70%
	を基本に授業への参加態度も加味し、総合的に評価します。
科目認定	成績計上の算定割合 : 100 点
備 考	第2回の授業までにテキスト用英語音声のダウンロードが完了できるよう準備しておくこと。英語の辞書（電子・紙）が、あれば望ましい。

科 目 番 号	B-4	科 目 名	フィジカルアセスメント (臨床判断の基礎)
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	院外講師	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	前 期	単位(時間数)	1 単位(30 時間)
單 元 の 目 的	対象の身体的状態をフィジカルイグザミネーションを用いて客観的に把握し、臨床判断に活かす基礎的能力を習得する。		

<授業の概要>

地域包括ケアシステムが整備され、看護師が活動する場は多様な場へと拡がり、看護の対象や療養の場も多様化してきている。看護師には、複雑な状況においても対象者の健康状態の解釈や適切な反応が求められる。本講義では、対象者の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメント能力を育成する。さらに、臨床判断モデルを理解し、患者の状態にあった適切なケアを提供できる力を養う。

関連既習科目	解剖学、生理学、形態機能学、病理学総論、疾病論、治療論、基礎看護援助論
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術I 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院

<授業の展開及び内容>

1. フィジカルアセスメントとは
 - 第1回 1) フィジカルアセスメントの概念・目的・方法
 - 第2回 2) 臨床判断
2. 症状・徴候からの系統別フィジカルアセスメント
 - 第3～4回 1) 消化器系のフィジカルアセスメント【演習】
 - 第5～6回 2) 腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント【演習】
 - 第7～8回 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメント【演習】
 - 第9～10回 4) 循環器系のフィジカルアセスメント【演習】
 - 第11～12回 5) 脳神経系のフィジカルアセスメント【演習】
 - 第13～14回 6) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント【演習】

評価方法 科目終了試験、課題の提出、出席状況

科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

科 目 番 号	B-19	科 目 名	多職種連携演習
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1 単位(15 時間)
単 元 の 目 的	多様な関連職種の専門性を理解し、活動の場における看護職をとりまく職種との連携・協働方法について学ぶ。		

<授業の概要>

保健医療福祉の現場では、看護職はもちろん、多くの職種が従事している。対象者に必要なケアを提供するためには、これらのスタッフとの連携・協働が必要かつ重要であり、そのためには各職種の仕事の内容や責任の範囲、看護職との関係などを正確に理解することが必要である。さらには地域包括ケアシステムの時代、多様な場で活躍する看護師にとって看護の役割のみならず、各医療関係職種の専門性を理解し、互いの仕事の領域を認識することは重要であるといえる。

多職種連携の概念をはじめとし、多様な場で働く看護師の役割を学ぶ機会として、在宅医療専門クリニックでのジョブシャドーイング演習を取り入れ、多様な関連職種の専門性や連携・協働の実際と看護の役割を学ぶ内容とする。

関 連 既 習 科 目	人間関係論、関係法規（医療と法律）、看護学概論、基礎看護援助論Ⅰ、地域で生活する人を支える看護論Ⅱ
テ キ ス ト	現在までに使用したテキストを使用

<授業の展開及び内容>

第1回 多職種連携の概念と基本的理念

地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護の役割

第2回 保健・医療・福祉の場における各専門職の役割機能と看護の役割

第3～4回 専門職間における連携・協働・調整の実際（施設演習）に向けた準備やまとめ

第5回 多職種におけるコミュニケーションの実際

医師、看護師、訪問介護員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士

鍼灸マッサージ師、調理師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー

事務スタッフなど

第6・7回 多職種連携演習における学びの共有

*上記以外の時間に、在宅医療専門クリニックで多職種連携の実際を学ぶ時間を設けます

評価方法 授業・グループワーク・演習への参加態度、課題実施状況、筆記試験

科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

机上の学習を含め、在宅医療専門クリニックで関係職種にジョブシャドーイングを行い、多職種連携演習の実際を学ぶ科目となります。関係職種の専門性を知ることによって、看護の役割も明確となってきます。ディスカッションやリフレクションを通して、楽しく学んでいきましょう。

科 目 番 号	C-8	科 目 名	臨床看護総論 I
対 象 学 年	2学年		与薬
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 20 時間)
單 元 の 目 的	薬物療法、検査に伴う援助技術を習得する。医療事故や患者の生命に関わる援助技術であることから、倫理的側面を考慮し、安全の観点を含んで習得する。		

<授業の概要>

診療の補助技術は、保健師助産師看護師法に規定されている看護独自の機能であり、身体侵襲を伴う行為である。そのため、事故発生の危険性を予見し、対象が安心して、安全・安楽に薬物療法を受けられるよう援助する必要がある。講義・演習・校内実習を通して、薬物療法の意義や目的、看護師の役割を理解し、原理・原則、科学的根拠に基づいた与薬の技術を習得する。

関連既習科目	解剖学、生理学、薬理学、医療安全 I
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術看護技術 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1回 与薬に関する基礎知識、経口与薬・口腔内与薬 〈講義〉

第2回 吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 〈講義〉

第3～4回 経口与薬・口腔内与薬、吸入、経皮的与薬、直腸内与薬の実際 〈校内実習〉

第5回 注射の基礎知識 〈講義〉

第6回 注射の実施法（皮下注射、筋肉内注射） 〈講義〉

第7回 輸液療法、注射の実施法（点滴静脈内注射） 〈講義〉

第8～9回 皮下注射、筋肉内注射、点滴静脈内注射の実際 〈校内実習〉

評価方法

筆記試験、授業への参加状況、課題の提出状況で評価する

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

看護師には、医師に指示された薬剤を正しく与薬する責務があります。一つ一つの行為に立ち止まって、確認しながら援助する姿勢を身につけてほしいです。

科 目 番 号	C-8	科 目 名	臨床看護総論 I			
対 象 学 年	2学年		診察・検査・処置			
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有			
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 10 時間)			
單 元 の 目 的	薬物療法、検査に伴う援助技術を習得する。医療事故や患者の生命に関わる援助技術であることから、倫理的側面を考慮し、安全の観点を含んで習得する。					
<授業の概要>						
診療・検査時の看護師の役割を理解し、それに伴う基本技術を習得することを目指す。 看護師は診療・検査の目的や方法を十分に理解した上で必要な情報が正確に得られるよう援助が必要であるとともに、患者への侵襲やリスクを十分に理解した上で安全かつ安楽に行えるよう援助する必要がある。そのため、医療安全や倫理的側面について意識しながら学習を進める。						
関 連 既 習 科 目	治療論 II 基礎看護援助論 I					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術看護技術 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1回～2回 〈講義〉 1. 診察における看護 2. 検査における看護 1) 生体検査（放射線検査・内視鏡検査・超音波検査・肺機能検査）時の看護 2) 検体検査（血液検査・尿検査・便検査・喀痰検査）時の看護						
第3回 〈講義〉 静脈内採血の方法と看護						
第4～5回 〈校内実習〉 静脈血採血の実際						
評価方法 筆記試験、授業への参加状況、課題の提出状況で評価する						
科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照						
備 考 授業の演習では注射針などの使用をするため、自己及び他者に危険が及ばないよう細心の注意を払いながら取り組む事。						

科 目 番 号	C-9	科 目 名	臨床看護総論Ⅱ		
対 象 学 年	2学年				
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有		
		単位(時間数)	1単位(30時間)		
單 元 の 目 的	診察、治療、処置を受ける対象の特徴を理解し、診察、治療、処置時に必要な基本的援助技術を習得する。				
<授業の概要>					
生体は生命を維持するためのエネルギー生産のため酸素を必要とする。疾病および障害により体内に酸素を十分に取り込むことが困難となった対象に対しての援助として酸素療法・吸引について学ぶ。診療の補助技術である酸素療法と吸引について、その目的や方法を理解し、安全にエビデンスに基づいた技術を習得する。					
関連既習科目	解剖学、疾病論Ⅰ・Ⅱ(循環器・呼吸器)、治療論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護援助論Ⅲ・Ⅴ、成人看護学概論				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕臨床看護総論 医学書院				
<授業の展開及び内容>					
第1～2回 手術療法を受ける患者の援助 1)手術前の看護 2)手術中の看護 3)手術後の看護					
第3回 救急治療を受ける患者の援助 1)救急治療を必要とする患者の特徴 2)救急治療を受ける患者の援助(一次救命処置)					
第4～5回 酸素療法の目的・種類・適応、合併症、吸入の方法					
第6回 輸血療法					
第7～9回 吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引)の目的・種類・適応、吸引の方法					
第10回 安静療法を受ける患者の援助 1)安静療法の基礎的知識 2)安静療法を必要とする患者の特徴 3)安静療法を受ける患者の看護					
第11回 食事療法を受ける患者の看護 1)食事療法の基礎的知識 2)食事療法を必要とする患者の特徴 3)食事療法を受ける患者の看護					
第12回 放射線療法を受ける患者の援助 1)放射線療法の基礎的知識 2)放射線療法を必要とする患者の特徴 3)放射線療法を受ける患者の看護					
第13～14回 リハビリテーションを受ける患者の援助 1)リハビリテーションの基礎知識 2)リハビリテーションを受ける患者の理解 3)リハビリテーションを受ける患者の看護					
評価方法	科目終了試験、授業・演習の参加状況				
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照				
備 考					

科 目 番 号	C-11	科 目 名	基礎看護援助論演習Ⅱ
対 象 学 年	2学年		OSCE
担 当 講 師	専任教員	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1単位(15時間)
單 元 の 目 的	対象の状況を根拠に基づき判断し、学習した知識、技術、態度を統合し、必要な看護が実践できる基礎的能力を習得する。 実践した看護を振り返り、自己の傾向と課題を明らかにする。		

<授業の概要>

看護学概論・基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した知識・技術・態度を統合し、事例を通して、対象の個別性に配慮した看護が実践できる基礎的能力を身につけることを目標としている。

関連既習科目	基礎看護援助論Ⅰ、基礎看護援助論Ⅲ、基礎看護方法論
テキスト	看護学概論・基礎看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで活用したテキスト

<授業の展開及び内容>

- | | |
|-------|--|
| 第1～4回 | 1. 授業の進め方、オリエンテーション、事例提示
2. 個人ワーク・グループワーク・実践計画立案と実践練習
(患者の状態把握のための情報収集・アセスメント) |
| 第6～7回 | 1. OSCE (客観的臨床能力試験) |
| 第8回 | 1. 振り返りとまとめ |

評価方法

授業・演習の参加状況、課題提出状況、演習時の技術課題到達度で評価する。

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

これまで学んできた疾病・治療・看護の知識と基本的看護技術を活用し、事例をもとに対象にあった看護実践ができるようにしていきましょう。この授業では新たな学習内容ではなく、これまで学んできた知識・技術をベースとし、患者の理解とそれらを踏まえ状態や状況に合わせた看護実践を目指します。演習・グループワークが中心となるとともに、技術の到達度が評価の基準になりますので、積極的に演習に参加し、技術練習に取り組みましょう。

科 目 番 号	C-12	科 目 名	看護倫理
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	教育主事	実 務 経 験	有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科 目 目 的	医療及び看護の日常の場面にある事例や臨地実習での自分たちの体験を踏まえ、倫理的課題に気づき、その解決のための基礎的能力を習得する。		

＜授業の概要＞

看護の日常の場面にある倫理的問題に気づくと共に、倫理的視点に基づいた専門職としての対応のあり方について学ぶ。

関 連 既 習 科 目	倫理学、看護学概論
テ キ ス ト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会

＜授業の展開及び内容＞

第1回 倫理学の基本的な考え方

看護の倫理原則

倫理的ジレンマ

第2回 看護倫理を学ぶ意義

看護実践上の倫理的概念

第3回 看護実践と倫理 ケアの倫理

第4回 生命倫理

先端医療と制度をめぐる生命倫理

第5回 死の生命倫理と患者の尊厳

第6～7回 倫理的問題へのアプローチ及び事例検討

評価方法 筆記試験

科目認定 成績計上の算定割合:100 点満点

備 考

看護師が活動する場は多様化しており、看護師個々の倫理的視点がさらに重要となる。1年次に学習した倫理学を想起し、看護師として必要な考え方、倫理的問題へのアプローチの仕方を学んでほしい。

科 目 番 号	C－17	科 目 名 論Ⅱ	地域で生活する人を支える看護
対 象 学 年	2学年		有
担 当 講 師	院外講師		
開 講 学 期	前期	単位 (時間数)	1 単位 15 時間
科目的目的	地域包括ケアの概念と、地域共生社会の実現に向けた様々なライフサイクル、健康レベルにある人々の健康支援、サービス提供のシステムを理解する。		

＜授業の概要＞

地域で暮らす様々なライフサイクルや健康レベルにある個人・家族・集団が健康の維持・増進や疾病予防と目指した生活を展開できるという観点から、社会制度や地域ケアシステム、多職種連携の実際などを理解する。具体的な事例を通して地域ケアシステム作りの理解を深める。

関連既習科目	地域保健学、社会福祉論、地域・在宅看護概論、地域で生活する人を支える看護論Ⅰ
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院

＜授業の展開及び内容＞

1. 地域での暮らしを支える看護
 - 1) 地域包括ケアシステムとは
 - 2) 自助・互助・共助・公助の意義と役割
 - 3) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関
 - (1) 行政機関との連携
 - (2) 地域包括支援センターとの連携
 - (3) 居宅介護支援事業所との連携
 - (4) 介護サービス事業所との連携
 - (5) 住民との連携と見守り・SOS ネットワーク
 - (6) 専門職以外の人々との連携と地域の目
 - (7) 地域における複合的な連携
2. 地域包括ケアと地域ケア会議
3. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント（事例検討）

評価方法

筆記試験

科目認定

成績計上の算定割合：100 点満点

備考

科 目 番 号	C-18	科 目 名	地域・在宅看護援助論 I		
対 象 学 年	2学年				
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 驚	有		
	院内講師		有		
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間)		
科 目 の 目 的	在宅看護に必要な日常生活援助および医療処置に伴う、援助のアセスメントの視点と技術を習得する。				
<授業の概要>					
在宅看護において、医療の進歩と社会背景により、医療依存度の高い療養者が増えている。在宅看護では、訪問回数や訪問時間が限られている中で、看護師一人で療養者を訪問し、看護を提供するため、適切な判断力と技術力が求められる。医療処置を必要とする療養者は、処置や管理がきちんとされないと療養者の状態を悪化させ、介護負担が増えるだけでなく、在宅での療養が困難になる。そのため、身体的にも精神的にも療養者や家族の負担は大きい。ここではこれらのこと踏まえ、在宅看護における処置に伴う援助について学ぶ。					
関 連 既 習 科 目	在宅看護概論、基礎看護援助論 I ~ V、臨床看護総論 I・II、看護倫理、医療安全 I				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院				
	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院				
<授業の展開及び内容>					
第1回 食生活の援助 第2回 排泄の援助 第3回 移乗移動（活動）の援助 第4回 清潔の援助 第5回・第6回 洗髪の援助（演習） 第7回 与薬支援 第8回 経管栄養（胃瘻を中心に）を受ける療養者・家族への援助 第9回 HPN：在宅中心静脈栄養を受ける療養者・家族への援助 第10回 在宅腹膜透析療法を受ける療養者・家族への援助 第12回 榢瘻の予防とケア 第13回 HOT：在宅酸素療法を受ける療養者・家族への援助 第14回 HMV：在宅人工呼吸器療法を受ける療養者・家族への援助					
評価方法	筆記試験、出席状況などで評価する				
科目認定	成績計上の算定割合：50 点満点				
備 考	各専門領域での学習内容を想起しながら、在宅看護を行う場合、家族の介護負担も含め、どのような問題が生じるのか、そのアセスメントの視点と、療養者だけでなく家族も考慮した援助について、事例も提示し考えていきたい。				

科 目 番 号	C-19	科 目 名	地域・在宅看護援助論Ⅱ
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有
	院外講師		有
	院外講師		有
開 講 学 期	後 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科 目 の 目 的	事例を通して在宅で療養している療養者と家族への看護を理解する。		

<授業の概要>

地域・在宅看護における看護実践は、幅広い年齢や疾患・障害を抱える療養者と家族の暮らしを尊重した看護を実践し、人生の「伴走者」としての役割も担う。在宅で療養する療養者とその家族の生活全体を捉えながら、在宅での生活が継続できるよう関連機関とも連携を図り、看護を展開していく必要がある。この科目では多様な対象者に多様なケアを行う活動について学び、地域・在宅看護を実践するための知識を深める。

関連既習科目	地域・在宅看護概論、地域・在宅看護援助論Ⅰ 老年病態看護論、老年看護援助論
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院

<授業の展開及び内容>

- 第1回 脳血管疾患（寝たきり老人）の療養者の在宅看護とその実際
- 第2回 パーキンソン病の療養者の在宅看護とその実際
- 第3回 認知症の療養者の在宅看護とその実際
- 第4回 小児の療養者の在宅看護の現状とその実際
- 第5回 COPD の療養者の在宅看護とその実際
- 第6回 難病（ALS）で人工呼吸療法中の療養者の在宅看護とその実際
- 第7回 終末期（がん）の療養者の在宅看護とその実際（ACP とグリーフケアを含む）

評価方法

筆記試験

評価基準

成績計上の算定割合：100点満点

備 考

科 目 番 号	C-20	科 目 名	地域・在宅看護方法論演習
対 象 学 年	2学年	実 務 経 驚	有
担 当 講 師	院外講師	単 位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
開 講 学 期	後 期	科 目 の 目 的 在宅での療養者及び家族の健康問題を解決するための、臨床判断の基礎的能力を習得する。	

<授業の概要>

在宅における看護過程は、治療をしながら、障害を持ちながら、住み慣れた自宅などで、自分の意思によって希望する生活を継続できるよう支援することを目的に展開される。療養者の心身の健康状態や家族や介護の状況、暮らし方・価値観・居住地域の状況を考察することが必要である。ここでは在宅療養生活の希望を主に置き、対象の健康レベルおよび発達段階、家族の状況に応じた看護過程の展開について事例を用いて学習する。

関 連 既 習 科 目	在宅看護概論、在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ、老年病態看護論、老年看護援助論
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院
	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院

<授業の展開及び内容>

1. 在宅で療養する事例患者の経過の判断(情報取集・アセスメント・看護計画)
2. 事例を用いた看護実践(シミュレーション演習)

評価方法 課題、平常点ほか

科目認定

成績計上の算定割合: 100 点

備考

科 目 番 号	C-25	科 目 名	成人看護援助論Ⅰ (生活の再構築を必要とする対象の看護)
対 象 学 年	2学年		慢性疾患患者の看護、 肝臓疾患患者の看護
担 当 講 師	院内講師	実 務 絏 験	有
	院内講師		有
開 講 学 期	前 期	単位(時間数)	1単位(30時間のうち11時間)
科 目 の 目 的	健康障害(糖尿病・慢性肝炎・肝硬変・慢性腎不全)を持ちつつ生活の再構成を必要とする対象に応じた看護が理解できる。		

<授業の概要>

慢性疾患患者は長期あるいは生涯にわたり病気とともに生きていかなければならない。そこで成人看護学概論で学習した慢性期の患者が体験する病みの軌跡を基に対象理解をする。患者家族が病気とその治療を受容し、自分のライフスタイルの中で自己管理する能力を身につけることができる支援が重要である。患者自らが健康管理できるよう、成人期の学習の特徴(アンドラゴジー)や自己効力理論などを活用し、ここでは、主に慢性肝炎・肝硬変、慢性腎不全、糖尿病患者の看護について学習していく。さらにこの学習を、成人看護方法論演習・成人看護援助論演習につなげていく。

関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論Ⅱ(腎・泌尿器)・Ⅲ(消化器)、疾病論Ⅴ(内分泌)、薬理学、地域・在宅看護概論、成人看護学概論		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院		

<授業の展開及び内容>

第1～2回 慢性肝臓疾患患者の看護

- 1) 慢性肝臓疾患患者のアセスメント(門脈圧亢進症:腹水貯留・腹部膨満感・肝性脳症・黄疸・食道動脈瘤・吐血)と症状緩和
- 2) 慢性肝臓疾患をもつ患者の精神的・社会的影響
- 3) 主な治療・検査に伴う看護(硬化療法・PEIT・肝動脈塞栓術・PTCD・安静療法・食事療法)

第3～4回 糖尿病患者の看護

- 1) 糖尿病患者のアセスメントと症状緩和
 - ・血糖上昇に伴う症状:口渴・多飲・多尿、合併症:腎症・網膜症・神経症、検査:空腹時血糖、75GOGTT、HbA1c
- 2) 糖尿病をもつ患者の精神的・社会的影響
- 3) 治療と看護
 - ・食事療法、薬物療法、運動療法
- 4) 糖尿病の慢性合併症とその治療および看護
- 5) 糖尿病患者のセルフケア行動に対する看護(合併症予防と生活調整)
- 6) 糖尿病のある患者の家族の精神的・社会的影響と看護
(患者会、家族への支援、社会資源の活用)

第5回 慢性腎不全患者の看護

- 1) 症状に伴う看護、検査・治療を受ける患者の看護
- 2) 患者・家族の精神的・社会的影響と看護

評価方法

筆記試験、授業への参加状況、課題の提出状況で評価する。

科目認定

成績計上の算定割合:科目評価計画参照

備 考

科 目 番 号	C-25	科 目 名	成人看護援助論Ⅰ (生活の再構築を必要とする対象の看護)
対 象 学 年	2学年		慢性呼吸器疾患患者の看護
担 当 講 師	院内講師	実 務 経 驚	有
開 講 学 期	前 期	単位(時間数)	1単位(30時間のうち8時間)
科 目 の 目 的	健康障害(慢性呼吸器疾患)を持つ生活の再構成を必要とする対象に応じた看護が理解できる。		

<授業の概要>

慢性呼吸器疾患患者は長期あるいは生涯にわたり病気とともに生きていかなければならない。そこで成人看護学概論で学習した慢性期の患者が体験する病みの軌跡を基に対象理解をする。援助では、患者と家族が病気とその治療を受容し、自分のライフスタイルの中で自己管理する能力を身につけることができる支援が重要である。患者自らが健康管理できるよう、成人期の学習の特徴(アンドラゴジー)や自己効力理論などを活用し、ここでは、主に慢性呼吸器疾患患者の看護について学習していく。

関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論Ⅱ(呼吸器)、薬理学、地域・在宅看護概論、成人看護学概論
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1回 慢性呼吸器疾患患者の看護

- 1) 慢性呼吸器疾患患者のアセスメント(呼吸困難・咳嗽と喀痰・CO₂ナルコーシス・肺性心による浮腫)と症状緩和
- 2) 慢性疾患をもつ患者の精神的・社会的影響
- 3) 主な治療・検査に伴う看護(薬物療法・呼吸理学療法・酸素療法)・気管支鏡
- 4) 慢性疾患のある患者の家族の精神的・社会的影響と看護

第2～3回 人工呼吸器(NIPPV・BIPAP)装着中の患者の看護

- 1) 観察点、注意点、日常生活動作について
- 2) 合併症の予防
- 3) 不安への援助と苦痛の緩和
- 4) コミュニケーションへの援助

*HOTの患者の看護については、地域・在宅看護論で学習する

第4回 肺結核患者の看護

- 1) 感染予防
- 2) 咳血時の看護
- 3) 健康維持・増進等の自己管理についての指導

評価方法

筆記試験、授業への参加状況、課題の提出状況で評価する

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

科 目 番 号	C-25	科 目 名	成人看護援助論Ⅰ (生活の再構築を必要とする対象の看護)
対 象 学 年	2学年		障害のある患者の看護
担 当 講 師	院内講師	実 務 絏 験	有
	院内講師		有
開 講 学 期	前 期	単位(時間数)	1単位(30時間のうち11時間)
科 目 の 目 的	健康障害を持ちつつ生活の再構成を必要とする対象に応じた看護が理解できる。		

<授業の概要>

慢性疾患患者は長期あるいは生涯にわたり病気と共に生きていかなければならない。19分野の政策医療のうち、神経難病患者、筋ジストロフィー患者、重症心身障害者の看護について学ぶ。残存機能・獲得されている機能に応じた援助や工夫、また機能を維持するための援助を学ぶ。また、二次合併症を予防し、その人らしく生きる支援について具体的な方法を学ぶ。

関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論(内分泌・代謝)、薬理学、看護学概論、成人看護学概論
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 医歯薬出版株式会社 新版 重症心身障害療育マニュアル

<授業の展開及び内容>

第1～2回 機能障害のある患者の看護

- 1) 政策医療と神経・筋・難病患者の看護
- 2) 障害のある患者の日常生活援助
- 3) 障害のある患者の家族と精神的・社会的影響と看護
- 4) 障害のある人のQOLおよび社会復帰に対するソーシャルサポート

第3回 筋萎縮性側索硬化症患者の看護

- 1) 症状(筋力低下・球麻痺・呼吸障害など)に対する看護
- 2) 障害が精神的・社会的に及ぼす影響と看護
- 3) 生活を整える援助(呼吸管理、栄養管理、誤嚥予防、清潔・排泄の援助)

第4回 重症心身障害者の看護

- 1) 重症心身障害者とは
- 2) 重症心身障害者をもつ家族の問題
- 3) 重症心身障害者を取り巻く環境(生活を支える社会資源、医療と他職種との連携、療育活動など)
- 4) 日常生活援助と健康管理

第5回 重症心身障害者の発達段階をふまえた援助

- 1) 観察とコミュニケーション
- 2) 機能障害とりハビリテーション(嚥下障害、呼吸障害、運動障害など)

評価方法 筆記試験、課題レポート、出席状況から総合評価する。

科目認定 成績計上の算定割合:科目評価計画参照

備 考

科 目 番 号	C-26	科 目 名	成人看護援助論Ⅱ (急激な健康状態の破綻から回復期にある対象の看護)
対 象 学 年	2学年		虚血性心疾患の急性期看護
担 当 講 師	院内講師	実 務 経 験	有
開 講 学 期	前 期	単位(時間数)	1 単位 (30 時間のうち 11 時間)
科 目 の 目 的	生命の危機状況から回復期にある対象の健康障害に応じた看護が理解できる。		

＜授業の概要＞

急性期は、侵襲の程度や生体反応のバランスによって回復過程が左右される時期である。そのため急性の疾患は、治療やケアが適切であれば、その状態は一時的で回復の可能性も大きいが、慢性化したり、急激に死に至る場合もある。成人看護学概論で学習した生理学的なストレス反応は、様々な神経・ホルモン類によって惹起される反応をもとに考えて、また、危機理論を活用し精神的状態の理解をしていく。今回の授業では、急性期にある患者の救急時の援助を学ぶとともに、内科的治療の必要な循環器疾患患者に焦点を当て、臨床で実際におこなっている専門的・具体的な看護援助を学び、急性期にある患者の特徴と回復していく過程の看護のポイントを理解する。

関連既習科目	解剖学、疾病論Ⅰ(循環器)、薬理学、臨床看護総論Ⅰ、成人看護学概論
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院

＜授業の展開及び内容＞

第1～3回 虚血性心疾患患者の急性期の看護

- 1) 生理的アセスメント
(12ECG、血行動態のモニタリング：スワンガントカテーテル、検査データの判断)
- 2) 症状（胸痛・胸部痛以外の痛み、動悸・呼吸困難・不整脈・心不全症状など）に対する援助
- 3) 心理・社会面(危機感・死の恐怖など)に対する援助
- 4) 検査・治療時の看護 (CAG、PCI、薬物療法)
- 5) 患者を支える家族の援助 (危機理論)

第4～5回 回復していく過程の援助

- 1) 心臓リハビリテーション
 - ①運動強度の単位とりハビリテーションの進め方
 - ②指導内容（食事・日常生活・運動療法・緊急時の対応）

評価方法

筆記試験、課題レポート、出席状況から総合評価する

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

科目番号	C-26	科 目 名	成人看護援助論Ⅱ (急激な健康状態の破綻から回復期にある対象の看護)			
対象学年	2学年		生命の危機的状況にある患者の看護			
担当講師	院外講師	実務経験	有			
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(30時間の内19時間)			
単元の目的	生命の危機状況から回復期にある対象の健康障害に応じた看護が理解できる。					
<授業の概要> 急性期は外的侵襲に対する生体の防御反応や修復反応が活発化して、侵襲の程度や生体反応のバランスによって回復過程が左右される時期である。そのため急性の疾患は、治療やケアが適切であれば、その状態は一時的で回復の可能性も大きいが、慢性化したり、急激に死に至ったりする場合もある。成人看護学概論論で学習した急性期の身体反応や心理的状況(危機理論)をもとに対象理解を深める。具体的にクモ膜下出血と交通外傷(脊椎損傷)の患者を事例に患者の援助を学ぶとともに、回復していく過程を通して、生活行動変更への支援を理解する。						
関連既習科目	解剖学、疾病論IV(脳神経・運動器)、薬理学、臨床看護総論Ⅰ、成人看護学概論					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1～4回 1. 生命危機状態にあるくも膜下出血の患者の看護						
1) 生理的アセスメント(意識レベル、神経学的所見: 対光反射、けいれん、四肢麻痺、頭部CT、MRⅠ、脳血管撮影、血液所見) 2) 症状(頭蓋内圧亢進症状: 頭痛・嘔気・嘔吐・血圧上昇)に対する援助 3) 精神・社会面(危機感・死への恐怖)に対する援助 4) 治療時の看護 ①手術前看護(動脈瘤の再破裂予防対策) ②手術後の看護(異常の早期発見: 血管れん縮、脳室ドレーンの管理、血圧コントロール) 5) 患者を支える家族の援助 6) 危機状態から回復していく過程の援助(リハビリテーション)						
第5～9回 2. 生命危機状態にある交通外傷、脊椎損傷の患者の看護						
1) 生理的アセスメント(ショック症状、疼痛、神経麻痺の程度) 2) 身体的苦痛(痛み、神経麻痺) 3) 精神・社会面(危機感・死の恐怖など)に対する援助 4) 保存的療法(牽引療法・ギプス固定) 5) 手術療法 6) 患者を支える家族の援助 7) 危機状態から回復していく過程の援助 ①褥瘡予防 ②排尿訓練 ③変形予防と機能訓練						
評価方法	筆記試験、授業参加態度で総合的に判定する。					
科目認定	成績計上の算定割合: 科目評価計画参照					
備考	疾患の特性(定期的な手術ではない、術前管理の重要性)精神・社会面(危機感・死への恐怖)に対する援助、危機状態から回復していく過程の援助について考えていてほしい。					

科目番号	C-27	科目名	成人看護援助論Ⅲ (人生の最期の時を迎える対象の看護)			
対象学年	2学年		終末期患者の看護			
担当講師	院外講師	実務経験	有			
開講学期	前期	単位(時間数)	1単位(30時間のうち10時間)			
科目的目的	人生の最期の時を迎える患者に応じた看護が理解できる。					
<授業の概要>						
終末期にある患者にとって残された時間は貴重なものであり、かけがえないものとなる。患者や家族が人生の中でその人らしく、そして尊厳ある日々が送れるような援助を学ぶ。成人看護学概論で学習した終末期の患者の特徴を踏まえ、キューブラ・ロスの理論をもとに患者心理を考える。また、終末期医療の現場においては様々な生命倫理の観点から検討すべき問題も存在していることを理解する。これらを踏まえ、終末期看護の基本的な考え方、看護の観点について学習していく。さらに、この科目で学習した内容を基本とし、成人看護援助論Ⅲの他科目（血液・女性生殖器・乳がん・肺がん）・成人看護方法論演習・成人看護援助論演習の学習につなげる。						
関連既習科目	成人看護学概論、臨床看護総論					
テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1回 終末期にある患者の看護						
1) 終末期にある人の身体的苦痛と援助 (1) 症状（倦怠感・栄養不良・呼吸困難）とそのコントロール (2) 疼痛コントロール (3) 痛みと心理の相互作用						
第2回 終末期にある人の心理過程とその援助						
1) 告知の有無と心理的影響 2) 死の受容過程 3) 心理的プロセスとその援助						
第3回 終末期にある人を支える家族への援助						
1) 死の受容と危機的プロセス 2) 予期的悲嘆 3) 死の受容への援助						
評価方法						
筆記試験、レポート、出席状況で総合的に判定する。						
科目認定						
成績計上の算定割合：科目評価計画参照						
備考						

科 目 番 号	C-27	科 目 名	成人看護援助論Ⅲ (人生の最期の時を迎える対象の看護)
対 象 学 年	2学年		血液疾患の終末期看護 症状・治療における看護
担 当 講 師	院外講師	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1単位(30時間のうち10時間)
科 目 の 目 的	人生の最期の時を迎える患者に応じた看護が理解できる。		
<p>＜授業の概要＞終末期にある患者にとって残された時間は貴重なものであり、かけがえないものとなる。患者や家族が人生の中でその人らしく、そして尊厳ある日々が送れるような援助を学ぶ。成人看護学概論で学習した終末期の患者の特徴を踏まえ、キューブラ・ロスの理論をもとに患者心理を考える。また、終末期医療の現場においては様々な生命倫理の視点から検討すべき問題も存在していることを考えながら学習できるように、ここでは血液系がんの具体的な事例を通して学習していく。さらに、この科目で学習した内容は、成人看護方法論演習・成人看護援助論演習の学習につなげる。</p>			
関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論Ⅰ(血液・造血器)、薬理学、臨床看護総論、成人看護学概論		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院		
<p>＜授業の展開及び内容＞</p> <p>第1回 血液・造血器系がんの終末期の患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液・造血器系がんと血液・造血器系がん患者の特徴、 2) 看護の役割 <p>第2回 主な症状における看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 貧血のある患者の看護 2) 出血傾向のある患者の看護 <p>第3回 主な治療における看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 化学療法、放射線療法を受けている患者の看護 2) 骨髄穿刺を受けている患者の看護 <p>第4～5回 血液・造血器系がん患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 白血病患者の看護 2) 悪性リンパ腫患者の看護 3) 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 4) 感染予防 5) 苦痛を伴う症状の緩和 6) 最期をその人らしく終えるための援助 			
評価方法	筆記試験、出席状況で総合的に判定する。		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備 考			

科 目 番 号	C-27	科 目 名	成人看護援助論Ⅲ (人生の最期の時を迎える対象の看護)			
対 象 学 年	2学年		乳がんの終末期看護 症状・治療における看護			
担 当 講 師	院外講師	実 務 絏 験	有			
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1 単位 (30 時間のうち 5 時間)			
科 目 の 目 的	人生の最期の時を迎える患者に応じた看護が理解できる。					
<授業の概要>終末期にある患者にとって残された時間は貴重なものであり、かけがえないものとなる。患者や家族が人生の中でその人らしく、そして尊厳ある日々が送れるような援助を学ぶ。成人看護学概論で学習した終末期の患者の特徴を踏まえ、キューブラ・ロスの理論とともに患者心理を考える。終末期のまた、終末期医療の現場においては様々な生命倫理の視点から検討すべき問題も存在していることを考えながら学習できるように、ここでは女性生殖器・乳がんの具体的な事例を通して学習していく。さらに、この科目で学習した内容は、成人看護方法論演習・成人看護援助論演習の学習につなげる。						
関 連 既 習 科 目	解剖学、生理学、疾病論(女性生殖器)、薬理学、臨床看護総論、成人看護学概論					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1回 女性生殖器の終末期の患者の看護						
1) 女性生殖器の特徴 2) 症状とその看護						
第2～3回 終末期にある乳がん患者の看護・主な症状、治療における看護						
1) 乳がん患者の特徴 2) 症状の緩和 3) 心理・社会的苦痛の緩和 4) 治療・処置に関する援助 5) トータルペインの援助						
評価方法						
筆記試験、出席状況で総合的に判定する						
科目認定						
成績計上の算定割合：科目評価計画参照						
備 考						

科 目 番 号	C-27	科 目 名	成人看護援助論Ⅲ肺がん患者の看護 (人生の最期の時を迎える対象の看護)
対 象 学 年	2学年		肺がん患者の看護 症状・治療における看護
担 当 講 師	院内講師	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1 単位(30 時間のうち 5 時間)
科 目 の 目 的	人生の最期の時を迎える患者に応じた看護が理解できる		
<p>＜授業の概要＞終末期にある患者にとって残された時間は貴重なものであり、かけがえないものとなる。患者や家族が人生の中でその人らしく、そして尊厳ある日々が送れるような援助を学ぶ。成人看護学概論で学習した終末期の患者の特徴を踏まえ、キューブラ・ロスの理論をもとに患者心理を考える。終末期のまた、終末期医療の現場においては様々な生命倫理の視点から検討すべき問題も存在していることを考えながら学習できるように、ここでは肺がんの具体的な事例を通して学習していく。さらに、この科目で学習した内容は、成人看護方法論演習・成人看護援助論演習の学習につなげる。</p>			
関 連 既 習 科 目	解剖学、生理学、疾病論(呼吸器)、薬理学、臨床看護総論、成人看護学概論		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院		
<p>＜授業の展開及び内容＞</p> <p>【肺がん患者の看護】</p> <p>第1回 1. 主な症状と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸困難 2) 疼痛 3) 全身倦怠感 4) 脳転移による麻痺・意識障害 <p>2. 心理社会的症状と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抑うつ・無関心・怒りなどの緩和 <p>第2回 1. 主な治療における看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術療法 2) 放射線療法 3) 化学療法 4) 成人期にある肺がん患者の自己決定や QOL を高めるための援助 			
評価方法	筆記試験		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備 考			

科 目 番 号	C-28	科 目 名	成人看護援助論演習			
対 象 学 年	2学年		周手術期にある患者の看護			
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有			
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1単位(30時間のうち14時間)			
科 目 の 目 的	成人期の特性を踏まえ、健康障害をもった対象に応じた看護を実施できる能力を身につける。					
<p>＜授業の概要＞ 周手術期では外的侵襲に対する生体の防御反応や修復反応が活発化して、侵襲の程度や生体反応のバランスによって回復過程が左右される。そのため術後合併症予防の看護が重要となる。さらに回復期では、手術により機能喪失した患者が、元の生活に戻れるような援助が重要となる。患者が適切な回復過程をたどるための援助技術の方法を学ぶ。</p>						
関 連 既 習 科 目	解剖学、疾病論Ⅲ(消化器)、薬理学、臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、基礎看護方法論					
テ キ ス ト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院、 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 周手術期看護(安全・安楽な看護の実践) インターメディカ					
<p>＜授業の展開及び内容＞</p> <p>第1～2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全身麻酔後の術後合併症について 2. 術直後の観察 3. 術後合併症予防のための援助 術前訓練・オリエンテーション(呼吸訓練・含嗽訓練・疼痛予防) 						
<p>第3～5回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 術後合併症予防の援助(深呼吸・排痰法、早期離床) 2. 疼痛緩和の援助 						
<p>第6～7回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃切除術後の患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胃切除後の機能障害について 2) ダンピング症状を起こさないための食事方法について 						
評価方法	筆記試験、課題レポート、授業参加状況で総合的に判定する。					
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照					
備 考	各事例をもとに、周手術期、慢性期、終末期応じた看護を実践することで学びを深め、今後の看護学実習の看護に生かしてほしい。演習に積極的に参加し、看護実践力が身につくように臨みましょう。					

科 目 番 号	C-28	科 目 名	成人看護援助論演習
対 象 学 年	2学年		慢性期の患者の生活の再構築の看護
担 当 講 師	院内講師	実 務 絏 験	有
	院内講師		有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1単位(30時間のうち9時間)
科 目 の 目 的	成人期の特性を踏まえ、健康障害をもった対象に応じた看護を実施できる能力を習得する。		

<授業の概要>

慢性疾患は、増悪を繰り返しながら進行する。進行を予防するためには生活の再構築を行い、一生涯にわたる自己管理が重要となる。成人期にある対象が慢性疾患に罹患することで、生活への影響もおこる。今まで学習した基礎看護方法論演習・成人看護方法論演習を基に、この科目では、具体的に慢性期疾患患者（糖尿病患者の看護）の事例をもとに、患者のセルフマネージメントを支援する援助技術の方法を学ぶ。また、呼吸理学療法を受ける患者の安楽な呼吸への援助技術の方法を学ぶ。

関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論Ⅱ・Ⅴ、薬理学、基礎看護方法論、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院

<授業の展開及び内容>

1. 慢性期患者の生活の再構築の看護

【第1～2回】

- 1) 糖尿病の成人期にある患者のセルフマネージメントを支援する看護
 - (1) 患者・家族への教育的アプローチ（事例によるパンフレット作成）
 - ①薬物療法
 - ②運動療法
 - ③食事指導

【第3～4回】

- 2) 呼吸理学療法を受ける患者の看護
 - ①リラクセーション
 - ②呼吸訓練
 - ③排痰法
 - ④運動療法

評価方法

筆記試験、レポート、出席状況で総合的に判定する。

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

成人看護援助論Ⅰで学習した内容や成人看護方法論演習で立案した内容を、演習を通して実践し、今後の看護学実習の看護にいかしてほしい。演習に積極的に参加し、看護実践力が身につくように臨みましょう。

科 目 番 号	C-28	科 目 名	成人看護援助論演習
対 象 学 年	2学年	科 目 名	終末期の患者の看護
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有
開 講 学 期	後 期	単位 (時間数)	1単位(30時間のうち7.6時間)
科 目 の 目 的	成人期の特性を踏まえ、健康障害をもった対象に応じた看護を実施できる能力を習得する。		

<授業の概要>

終末期は終末期にある患者にとって残された時間は貴重なものであり、かけがえないものとなる。患者や家族が人生の中でその人らしく、そして尊厳ある日々が送れるような援助を学ぶ。

今まで学習した基礎看護方法論演習・成人看護方法論演習を基に、この科目では、具体的に終末期疾患患者（子宮がん患者の看護）の事例をもとに、患者がその人らしく、日々が送れるための、看護のポイントと援助方法を学ぶ。

関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論(女性生殖器)、薬理学、臨床看護総論、成人看護学概論、基礎看護方法論演習
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院

<授業の展開及び内容>

1. 終末期患者の看護

- 1) 子宮がんの成人期にある患者の身体的・精神的・社会的痛みおよびスピリチュアルペインを緩和する看護
 - (1) 疼痛緩和の援助
 - ①薬物療法
 - ②日常生活の援助
 - (2) リンパ浮腫の援助
 - ①リンパ浮腫の改善のための援助
 - ②皮膚のケア
 - ③関節運動
 - ④体位の工夫
 - (3) 死の不安緩和
 - ①不安軽減の援助
 - ②家族の時間を作る援助

評価方法 科目終了試験、レポート、出席状況で総合的に判定する。

科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

成人看護方法論演習で立案した内容を、演習を通して実践し、今後の看護学実習の看護にいかしてほしい。演習に積極的に参加し、看護実践力が身につくように臨みましょう。

科 目 番 号	C-29	科 目 名	成人看護方法論演習
対 象 学 年	2学年		手術を受ける患者の看護過程の展開
担 当 講 師	専任教員	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1 単位(30 時間のうち 10 時間)
科 目 の 目 的	成人期にある対象の健康問題解決のための臨床判断の基礎的能力を身につけることができる。		

<授業の概要>

手術を受ける患者を対象とし、急性状態からの速やかな回復を促すための看護および社会に適応できるための看護とは何か、一連の看護過程の展開やシミュレーション演習を通して習得する。

胃がん患者の事例を中心に、術前の全身評価の視点を理解する。変化する多くの情報から、アセスメントし合併症予防のために必要な援助を導き出す。また、シミュレーション演習では、周手術期看護に特化する状況において、具体的な実践を通して臨床判断過程を実践する。

関 連 既 習 科 目	解剖学、疾病論Ⅲ(消化器)、薬理学、臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、基礎看護方法論
テ キ ス ト	NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1回

手術療法(侵襲的治療)を受ける患者の看護

1. 周手術期のアセスメントに必要な視点
2. 術前の全身評価

第2~3回

手術侵襲や全身麻酔の影響からの術後合併症をアセスメント

1. 手術中の状態をふまえた手術当日のアセスメント

第4回

社会生活への適応に向けた援助

1. 回復期患者のアセスメントと看護計画の立案

第5回

看護の実践(シミュレーション演習)と評価

評価方法	課題提出状況、授業参加状況
科目認定	成績計上の算定割合:科目評価計画参照
備 考	
疾患の病態生理、手術療法・周手術期に関連した処置、周手術期看護については、授業時間内で知識を再確認する時間はありません。理解したものとして進みますのでしっかり復習して臨んでください。事例疾患について、術式や看護について学習したことを活用しながら学びを深めてください。出された課題を自分で取り組み、講義で考え方を学び、自己でまとめることを繰り返すことで理解につながります。わからないことは確認しながら学習していきましょう。	

科 目 番 号	C-29	科 目 名	成人看護方法論演習
対 象 学 年	2学年		終末期にある患者の看護過程の展開
担 当 講 師	専任教員	実 務 絏 験	有
開 講 学 期	後 期	単位(時間数)	1 単位 (30 時間のうち 10 時間)
科 目 の 目 的	成人期にある対象の健康問題解決のための臨床判断の基礎的能力を習得する。		

<授業の概要>

成人看護学概論・成人看護援助論演習で学習した内容を活かし、終末期の成人患者および家族に対し適切な看護ケアを行うことができるための知識・技術を、一連の看護過程の展開やシミュレーション演習を通して習得する。

終末期の成人患者および家族に対し、病状の進行に伴う全人的苦痛を緩和するための看護を提供するために、患者の QOL に支障となる苦痛状態（疼痛、症状の進行や全身状態の低下、合併症などに伴う身体症状、精神的・社会的・靈的苦痛）及び家族の状態について情報収集・アセスメントに基づき判断し、適切な看護を導き出す。また、シミュレーション演習では、終末期看護に特化する状況において、具体的な実践を通して臨床判断過程を実践する。

関連既習科目	解剖学、生理学、疾病論Ⅲ(女性生殖器)、薬理学、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅲ、基礎看護方法論
テキスト	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーヴェルヒロカワ NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院 (副) 経過別看護過程の展開 学研 (副) 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研

<授業の展開及び内容>

第1～5回

1. 成人期にある子宮頸がん患者の看護過程展開の視点

- 1) 終末期のアセスメントに必要な視点
- 2) 終末期にある患者と家族のアセスメント
 - ・健康障害の分析
 - ・おこりやすい症状、問題（症状の進行や全身状態の悪化に伴う諸症状（がん性疼痛、転移・浸潤による症状）などに伴う身体的苦痛、精神的・社会的苦痛、スピリチュアルペイン）
 - ・精神的側面（フィンクの危機理論、キューブラー・ロスの死にゆく過程の活用）
 - ・価値観や人生観を踏まえた社会的側面の査定、治療方針と予後
- 3) 看護計画立案
 - ・全人的苦痛への看護（身体的・精神的・社会的苦痛およびスピリチュアルペインを緩和することで安寧をはかり、その人らしく生きることを支援することを目指す援助方法）

2. 看護の実践（シミュレーション演習）

3. 看護の評価

評価方法 出席状況、個人提出レポート、グループワークの参加状況

科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

疾患の病態生理、治療・処置、看護については学習をして臨んでください。演習中は、基礎看護方法論（問題解決技術）の学習や、成人看護学概論で学習した理論に基づいて思考プロセスを踏み、患者の価値観や人生観に配慮した看護を導き出しましょう。そして、ディスカッションやリフレクションを通して、自分たちで学ぶ楽しさを感じてほしいと思います。

科 目 番 号	C-29	科 目 名	成人看護方法論演習			
対 象 学 年	2学年		慢性期にある患者の看護過程の展開			
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有			
開 講 学 期	後 期	単位（時間数）	1 単位（30 時間のうち 10 時間）			
科 目 の 目 的	成人期にある対象の健康問題解決のための臨床判断の基礎的能力を習得する。					
<授業の概要>						
成人期にある慢性腎不全患者の事例を通して、患者および家族に対して、適切な看護ケアを行うための知識・技術を看護過程の展開やシミュレーション演習を通して習得する。						
関 連 既 習 科 目	解剖学、生理学、疾病論、薬理学、臨床看護総論、基礎看護方法論、成人看護学概論、成人看護援助論、成人看護援助論演習					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1～2回 アセスメント 第3回 看護問題の明確化 第4回 計画の立案 第5回 シミュレーション演習						
評価方法						
授業への参加状況、課題の提出状況で評価する						
科目認定						
成績計上の算定割合：科目評価計画参照						
備 考						
具体的な計画は、授業前に説明します。疾患の病態生理、治療・処置、看護については、しっかり学習をして臨んでください。基礎看護方法論（問題解決技術）や成人看護学概論で学習した理論をもとに看護を導き出しましょう。そして、グループで協力して自分たちで学ぶ楽しさを感じてほしいと思います。						

科 目 番 号	C-31	科 目 名	老年病態看護論
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科 目 の 目 的	老化と関連する疾病の特徴・診断・治療が理解できる。		

＜授業の概要＞

1年次に学んだ疾病論Ⅰ～Ⅶを基盤に、高齢者特有の疾患・症状についての評価方法・病態生理・診断・治療を学習していく。

関 連 既 習 科 目	疾病論Ⅰ～Ⅶ、老年看護学概論
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

＜授業の展開及び内容＞

1. 老年期の病態と診断

- ① 老年期医療の諸問題
- ② 「フレイル」と「老年症候群」
- ③ 高齢者の薬物療法の問題点
- ④ 高齢者総合機能評価、介護保険

2. 高齢者疾患の特徴

- ⑤ 脳卒中、認知症とその他の神経疾患
- ⑥ 循環器疾患
- ⑦ 呼吸器疾患
- ⑧ 糖尿病、腎疾患、その他の疾患

評価方法

科目終了試験

科目認定

成績計算上の算定割合：100点満点

備考

科 目 番 号	C-32	科 目 名	老年看護援助論
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	院内講師	実 務 経 驗	有
	院内講師		有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位(20 時間)
科 目 の 目 的	高齢者の特徴をふまえ、健康障害を持つ高齢者への援助方法を学ぶ。		
＜授業の概要＞	高齢者の看護実践には、高齢者が無理なく自立性を維持・回復するために、高齢者の特徴、機能低下、健康レベル・環境・生活習慣のアセスメントを行ったうえでの実践が重要である。老年看護病態論、老年看護学概論、臨床看護総論等の学習を基に、高齢者に見られることが多い症状や、健康障害を持つ高齢者に対する看護を学ぶ。		
関 連 既 習 科 目	老年病態看護論、老年看護学概論、臨床看護総論Ⅲ		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院		
＜授業の展開及び内容＞			
1. 高齢者の生活を支える看護			
1) 高齢者の生活を支える看護の特徴			
2. 高齢者の主要症状・健康障害と看護			
1) 健康障害を持つ高齢者の主要症状と看護			
(1) 認知機能障害ある高齢者の症状と看護			
(2) 骨粗鬆症の予防と看護			
(3) 寝たきりの防止と看護			
(4) 胃瘻造設・経管栄養を受ける高齢者の看護			
2) 健康障害を持つ高齢者の治療と看護			
(1) 前立腺肥大症、老人性白内障で手術を受ける高齢者の看護			
(2) 大腿骨頸部骨折で牽引療法を受ける高齢者の看護			
(3) パーキンソン病で薬物療法を受ける高齢者の看護			
(4) 検査を受ける高齢者の看護			
(5) 退院を控えた高齢者と家族への看護			
評価方法	筆記試験、出席状況などで評価する		
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備 考			

科 目 番 号	C-33	科 目 名	老年看護方法論演習
対 象 学 年	2学年	実 務 絏 験	有
担 当 講 師	専任教員	単 位 (時間数)	1 単位(15 時間)
開 講 学 期	前 期		
科 目 の 目 的	加齢や既往疾患により生活援助が必要な、脳血管性認知症の慢性期にある高齢者の事例と、大腿骨頸部骨折によって治療・リハビリテーションが必要な回復期にある認知症高齢者の事例を通し、加齢変化による日常生活の変化や日常生活で起こりやすい問題を解決するための、臨床判断の基礎的能力を習得する。		
<授業の概要>			
脳血管性認知症の慢性期にある高齢者の事例、大腿骨頸部骨折によって回復期にある認知症高齢者の事例を中心に、老年期の看護過程の展開の視点と特徴を理解する。認知症高齢者やその家族に起こりやすい問題や状況をアセスメントし、看護計画を立案する。			
関 連 既 習 科 目	疾病論IV、治療論II、基礎看護援助論I～V、基礎看護方法論、老年看護援助論		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院		
<授業の展開及び内容>			
<p>第1回 老年看護における看護過程の展開の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者のアセスメントに必要な視点 2) 高齢者と家族の特徴を考慮し強みを活かした計画立案の視点 <p>第2～3回 介護老人保健施設に入所中の認知症高齢者の看護 (VRでのシミュレーションを通しての臨床推論・臨床判断)</p> <p>第4～8回 慢性疾患回復期にある認知症高齢者の看護 (VRでのシミュレーションを通しての臨床推論・臨床判断)</p>			
評価方法			
授業への参加状況、参加態度、提出物で評価する。			
科目認定			
成績計上の算定割合：科目評価計画参照			
備 考			

科 目 番 号	C-41	科 目 名	小児病態看護論
対 象 学 年	2学年	実 務 経 験	有
担 当 講 師	院内講師	単 位 (時間数)	1 単位 (30 時間)
開 講 学 期	前 期		
科 目 の 目 的	小児の身体的・精神的特徴を理解したうえで、小児期に出現しやすい疾患の病態および診療を学び、健康障害をもった小児の看護を理解する。		
＜授業の概要＞	小児の特徴および各種小児疾患の病態・診療（診断・治療など）について講義する。		
関 連 既 習 科 目	解剖学、生理学		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院		
＜授業の展開及び内容＞			
第1回：小児の特徴、小児医療について	小児の身体・精神的特徴と小児疾患の概要、小児医療について学ぶ。		
第2回：遺伝子、染色体異常と胎内環境により発症する先天異常について	遺伝機構（遺伝子、染色体）および胎内環境を理解し、その異常による代表的疾患と対策について学ぶ。		
第3回：治療新生児の特徴と疾患	新生児の特徴を理解し、代表的疾患について学ぶ。		
第4回：代謝・内分泌疾患	小児の代謝機構・内分泌機構を理解し、その異常による代表的疾患と対策について学ぶ。		
第5回：呼吸器疾患	小児の呼吸機構を理解し、代表的疾患について学ぶ。		
第6回：循環器疾患	小児の代表的循環器疾患について学ぶ。		
第7回：栄養と消化器疾患	小児の必要栄養量・栄養方法を学ぶ。また、消化機構を理解し、代表的疾患について学ぶ。		
第8回：腎・泌尿器と生殖器疾患（骨・関節疾患、皮膚・感覚器疾患）	小児の代表的な各種疾患について学ぶ。		
第9回：精神疾患と事故・外傷・虐待などについて	小児期の精神的特徴を理解し、問題となる精神疾患について学び、対策を考える。		
第10回：神経・筋疾患（1）	神経・筋疾患の症状・評価・検査の概要と中枢神経系の奇形・脳性麻痺について学ぶ。		
第11回：神経・筋疾患（2）	中枢神経系の感染症・代謝異常・変性疾患および先天性筋疾患について学ぶ。		
第12回：アレルギー・免疫疾患	小児の免疫機構を理解し、その異常による代表的疾患と対策について学ぶ。		
第13回：感染症	微生物とヒトとの関係を理解し、病原微生物による代表的疾患・院内感染について学ぶ。		
第14回：血液疾患・悪性腫瘍	小児期に問題となる代表的な血液疾患・悪性腫瘍について学ぶ。		
評価方法	筆記試験		
科目評価	成績計上の算定割合：科目評価計画参照		
備 考			

科 目 番 号	C-42	科 目 名	小児看護援助論					
対 象 学 年	2学年	実 務 経 験	有					
担 当 講 師	院外講師	単位 (時間数)	1単位(30時間)					
開 講 学 期	後 期	健康障害や治療が小児と家族に及ぼす影響を学び、小児と家族の看護や小児の成長・発達をふまえた、小児看護に必要な援助技術の方法を理解する。						
<授業の概要>								
<p>小児の成長・発達の段階に応じた養護と基本的な生活習慣の獲得では小児看護学概論で学んだ小児看護の目的、小児の成長・発達、小児保健を想起しながら学習を進めます。小児特有の看護技術では基礎看護学の援助技術論Ⅰ～Ⅴで学んだ看護技術を基本として小児の成長発達段階に応じた方法を考えながら校内実習を進めます。小児病態看護論で学んだ小児各期に特有な健康障害や治療を想起しながら、小児と家族に及ぼす影響と反応や、小児と家族の看護を考えていきます。</p>								
関 連 既 習 科 目	基礎看護援助論Ⅰ～Ⅴ、小児看護学概論、小児病態看護論							
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院							
<授業の展開及び内容>								
<p>第1回：留意すべき子どもの権利と看護技術 コミュニケーション・プレパレーション 成長発達に応じた環境整備</p>								
<p>第2回：アセスメントに必要な看護技術 観察（バイタルサイン・トリアージ） 身体計測・発育評価</p>								
<p>第3回：治療・検査を援助する看護技術 検体の採取（採血・採尿・鼻咽喉分泌物・腰椎穿刺・骨髄穿刺）</p>								
<p>第4回：治療・検査を援助する看護技術 薬物療法（内服・注射・坐薬・浣腸・点眼・軟膏）</p>								
<p>第5回：療養生活を援助する看護技術 固定 吸引 吸入 酸素療法 経管栄養法</p>								
<p>第6回：活動制限を必要とする小児と家族 急性糸球体腎炎・股関節脱臼の患児の看護</p>								
<p>第7～8回：校内演習 食事・排泄の援助、バイタルサイン 身体計測、採尿</p>								
<p>第9～10回：校内演習 固定（診察時・採血時）、経管栄養、与薬、救命救急</p>								
<p>第11回：感染防止の必要がある小児と家族 麻疹・白血病の患児の看護</p>								
<p>第12回：手術を受ける小児と家族 手術を受ける子どもの術前・術後の看護 子どもの痛みの看護</p>								
<p>第13回：病気と共に生活している小児と家族 川崎病・アトピー性皮膚炎・気管支喘息・てんかんの患児の看護</p>								
<p>第14回：食事療法を必要とする小児と家族 乳児下痢症、糖尿病の患児の看護</p>								
評価方法 筆記試験 レポート 出席状況 演習への参加状況								
科目認定 成績計上の算定割合：100点満点								
備 考								
<p>小児の成長・発達、日常生活の援助に必要な看護技術についてはしっかりと復習しておいてください。 また、演習を自己の小児看護の目的・小児観をより明確に表現できる機会として活用して欲しいと思います。積極的に学習に参加してください。</p>								

科 目 番 号	C-43	科 目 名	小児看護方法論演習
対 象 学 年	2年生	実 務 経 驚	有
担 当 講 師	専任教員	単 位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
開 講 学 期	後 期	事例を通して健康障害を持つ小児とその家族の状態の健康問題を解決するため、臨床判断の基礎的能力を習得する。	
科 目 の 目 的			

<授業の概要>

幼児期にある気管支喘息患児の事例を通して、患児および家族に対して、適切な看護ケアを行うための知識・技術を看護過程の展開やシミュレーション演習を通して習得する。

関 連 既 習 科 目	解剖学、生理学、疾病論、薬理学、臨床看護総論、基礎看護方法論、小児看護学概論、小児病態看護論、小児看護援助論
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院

<授業の展開及び内容>

- 第1回 小児のアセスメントの視点
- 第2～3回 アセスメント
- 第4回 看護問題の明確化
- 第5回 計画の立案
- 第6回 プレパレーションの実際
- 第7～8回 シミュレーション演習

評価方法

授業への参加状況、課題レポートで評価する。

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

具体的な計画は、授業前に説明します。疾患の病態生理、治療・処置、看護、小児の成長発達については、しっかり学習をして臨んでください。個人ワークもあるため、計画的に学習を進めていきましょう。そして、グループで協力して自分たちで学ぶ楽しさを感じてほしいと思います。

科 目 番 号	C-46	科 目 名	母性病態看護論			
対 象 学 年	2学年	実 務 経 驚	有			
担 当 講 師	院外講師	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)			
開 講 学 期	前 期					
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥及び新生児の正常な経過及び異常な経過について理解する。					
<授業の概要>						
妊娠・分娩・産褥期の生理と経過と、早期新生児の特徴と生理的変化について講義をする。まずは正常な経過を理解した上で、異常について学習する。妊娠・分娩・産褥期・新生児期の看護を学ぶための基礎とする。						
関連既習科目	解剖学(女性生殖器系)、生理学					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1回	1. 妊娠の成立と正常な妊娠経過 1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的変化 4) 妊娠の経過と診断					
第2回	2. 妊娠の異常と診断・治療 1) 妊娠疾患：妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠、糖尿病・妊娠糖尿病 2) 多胎妊娠					
第3回	3. 分娩の経過 1) 分娩の3要素 2) 胎児と子宮および骨盤の関係 3) 分娩の機序					
第4回	4. 分娩の異常と診断・治療 1) 陣痛の異常：過強陣痛・微弱陣痛 2) 胎児の付属物の異常 胎盤の異常：前置胎盤、常位胎盤早期剥離 羊水の異常：羊水過多症、羊水過少症、羊水混濁 3) 分娩時異常出血：分娩時出血の原因、産科ショック、播種性血管内凝固(DIC)					
第5回	5. 産科処置と産科手術 1) 分娩誘発 2) 会陰切開 3) 骨盤位牽出術 4) 鉗子分娩 5) 吸引分娩 6) 帝王切開 7) 頸管縫縮術 6. 産褥の経過 1) 産褥の生理 2) 産褥の経過と診断 7. 産褥の異常と診断・治療 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱：乳腺炎、産褥熱、腎盂腎炎 3) 精神障害：産後うつ病					
第6回	8. 不妊の治療と遺伝相談 1) 不妊とその原因、不妊検査、不妊治療 2) 遺伝相談					
第7回	9. 早期新生児の特徴と生理的変化 1) 新生児の定義と特徴 2) 新生児の生理的変化 10. 早期新生児の異常と診断・治療 1) 早産児・低出生体重児 2) 呼吸器の異常（新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・胎便吸引症候群） 3) 代謝の異常（高ビリルビン血症・新生児ビタミンK欠乏症・低血糖症）					
評価方法	筆記試験					
科目認定	成績計上の算定割合：100点満点					
備 考						

科 目 番 号	C-47	科 目 名	母性看護援助論					
対 象 学 年	2学年	実 務 経 験	有					
担 当 講 師	専任教員	単 位 (時間数)	1 単位 (30 時間)					
開 講 学 期	前 期	マタニティサイクルにある女性と新生児及び家族を対象として、ウェルネスの観点から健康問題や健康課題を明らかにし、看護を実践する基礎的能力を習得する。						
<授業の概要>								
妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護について講義をする。妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的・社会的・精神的特性をふまえ、正常なマタニティサイクルを判断するための知識と正常な経過を促進するための看護を学習する。								
関 連 既 習 科 目	母性看護学概論 母性病態看護論							
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス 改訂版 インターメディカ							
<授業の展開及び内容>								
第 1 ~ 3 回								
妊娠期の看護								
1) 妊娠の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 健康状態を保持・増進するための看護 5) 親になるための準備教育								
第 4 回								
分娩期における看護								
1) 分娩期にある対象の理解 2) 産婦・胎児・家族のアセスメント 3) 産婦と家族の看護								
第 5 ~ 7 回								
産褥期の看護								
1) 退行性変化 2) 母乳育児 3) 親役割獲得 4) 育児 5) 退院後の看護 6) 産褥期の異常と看護								
第 8 ~ 10 回								
新生児期における看護								
1) 新生児の身体的特性 2) 胎外生活への適応 3) 新生児のアセスメント 4) 新生児の看護 5) 新生児期の異常と看護								
第 11 ~ 12 回								
妊娠期の看護 (保健指導:演習)								
第 13 ~ 14 回								
新生児期の看護 (沐浴・観察:演習)								
評 価 方 法 筆 記 試 験								
科 目 認 定 成 績 計 上 の 算 定 割 合 : 100 点 満 点								
備 考 講義前に事前の課題が出されます。自ら学ぶ姿勢を重要としており、自ら学習してきたことをもとに、講義をすすめていきます。								

科 目 番 号	C-48	科 目 名	母性看護方法論演習
対 象 学 年	2学年	実 務 経 驚	有
担 当 講 師	専任教員	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
開 講 学 期	後 期		
科 目 の 目 的	事例を通してマタニティサイクルにある女性と新生児、および家族の状態をアセスメントし、健康の保持増進や、健康問題を解決するための、臨床判断の基礎的能力を習得する。		

<授業の概要>

母性病態看護論・母性看護援助論で学習した内容をいかし、マタニティサイクルと新生児期にある対象の状態をアセスメントし、健康の保持増進や健康問題を解決するための看護実践できる能力を身につけることを目指す。

母性看護は、時代を担う子供を産み育てることを目的とした総合看護である。この目的を達成するために、対象である母性の生理的、情緒的、経済的、社会的ニーズを満たすように看護を展開することが必要である。

また、妊娠、分娩、産褥は連続しておこる一連の生理的現象である。妊娠や分娩、産褥におけるそれぞれの影響や、退院後の新生児の健康や育児について、あるいは産後の健康管理や家族計画に関する看護上の援助を視野に入れて看護を展開する基礎的能力を身につける。

関 連 既 習 科 目	母性看護学概論、母性病態看護論、母性看護援助論
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 母性看護学各論 看護実践のための根拠が分かる母性看護技術 メディカルフレンド社

<授業の展開及び内容>

- 第1回 母性看護学における看護過程の考え方・妊娠初期の看護過程
- 第2回 妊娠期の看護過程
- 第3回 妊娠期のシミュレーション演習
- 第4回 産褥期の看護過程
- 第5回 新生児期看護過程
- 第6回 産褥期のシミュレーション演習
- 第7回 新生児期のシミュレーション演習

評価方法

課題・筆記試験・平常点

科目認定

成績計上の算定割合：100 満点

備 考

母性看護学概論、母性看護援助論の確かな知識が必要となり、事前学習が重要となります。自主的な学習と、積極的な探求心を持って受講してください。毎回、課題が出されます。計画的な学習を望みます。

科 目 番 号	C-50	科 目 名	精神看護学概論			
対 象 学 年	2学年		精神看護学概論			
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有			
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 15 時間)			
科 目 の 目 的	心の発達や働きの基礎知識を学んだ上で、看護に役立つ心の健康および危機の理解と対応について習得する。また、精神看護の歴史的変遷を踏まえ、精神保健医療福祉の動向や課題について理解するとともに、精神看護に必要な知識・技術を習得する。					
<授業の概要> 精神看護の歴史的変遷から、精神に障害をもつ人に対する捉え方がどのように変化してきたのかを理解し、精神看護の基礎となる知識・技術を学ぶと共に、精神看護の今後の動向と課題について考えていく。						
キーワード：精神看護の目的、精神看護の変遷、精神看護の役割と機能、患者一看護師関係 履修条件：精神保健を履修していること						
関 連 既 習 科 目	看護学概論					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第 1 回	精神看護学の位置づけ 精神看護の概要 精神看護の対象と理解					
第 2 回	精神看護の目的と機能 精神看護の特徴 精神看護の目的・機能					
第 3 回	精神医療と看護の歴史的変遷 精神医療・看護の歩み 我が国における精神保健医療の現状					
第 4 回	精神医療をめぐる法制度と患者倫理 精神医療に関わる法制度と基本的な考え方 精神医療における倫理とは					
第 5 回	精神障害を抱える対象の現状 (DVD視聴)					
第 6 回	精神医療の現状と問題 (グループワーク) 講義内容、新聞、テレビ等から情報から精神障害を持つ人々の現状・問題をまとめた。					
第 7 回	精神医療の現状と問題 (プレゼンテーション) グループ間でまとめた内容を発表					
評 価 方 法	科目終了試験、レポート、受講態度から総合的に評価する					
科 目 認 定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照					
備 考	精神看護は難しく、理解しにくい分野ですが、心の看護をみなさんと一緒に考え学んでいきたいと思います。					

科 目 番 号	C-50	科 目 名	精神看護学概論
対 象 学 年	2年生		精神保健
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 驗	有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 15 時間)
科 目 の 目 的	心の発達や働きの基礎知識を学んだ上で、看護に役立つ心の健康および危機の理解と対応について習得する。また、精神看護の歴史的変遷を踏まえ、精神保健医療福祉の動向や課題について理解するとともに、精神看護に必要な知識・技術を習得する。		

<授業の概要>

精神保健はこころの健康を目指す活動である。そのためには、私たちを取り巻く環境とのかかわりの中で、こころがどのように発達していくのか、またどのように機能しているのかを理解する必要がある。このようなこころの基礎知識に基づいて、精神保健と関連するこころの健康維持や危機への対応について理解できるよう授業を進める。

関 連 既 習 科 目	心理学
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院

<授業の展開及び内容>

1. 心のとらえ方と心の健康についての考え方を学ぶ
 - ①心の構造と働き
2. 心の発達について、主に臨床心理学的発達論を学ぶ
 - ①心の発達理論:成長各期の発達
3. 人間関係や環境と心の働きの関係について学ぶ
 - ①人間関係性の中の心の問題
 - ②環境と心の働き
4. 生涯発達の観点から発達段階をとらえ、それぞれの発達段階における心の危機を学ぶ
 - ①発達段階での危機とその介入
5. さまざまな危機とそこで心の働きについて学ぶ
6. 精神保健活動の展開および制度について学ぶ

評価方法	受講態度および筆記試験
科目認定	成績計上の算定割合:科目評価計画参照
備 考	

科 目 番 号	C-51	科 目 名	精神病態看護論
対 象 学 年	2学年		病態
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 驗	有
	院外講師		有
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位(30時間のうち13時間)
科 目 の 目 的	精神疾患と精神障害についての病態・診断・治療を理解する。		

<授業の概要> 精神疾患と精神障害についての病態・検査・治療について学習する。

関 連 既 習 科 目	解剖学、薬理学
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1回 統合失調症

- 1) 症状論、疾患の説明、経過と予後、治療
- 2) 薬物療法、抗精神病薬の薬理
- 3) 非薬物療法、電気けいれん療法、社会復帰療法（レクレーション、作業療法）、集団精神療法、支持的精神療法、S S T（生活技能訓練）
- 4) 非定型精神病

第2回 双極性障害 抑うつ障害

- 1) 症状論、疾患の説明、経過と予後、治療
- 2) 薬物療法、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬の薬理
- 3) 非薬物療法、うつ病での精神療法

第3回 器質性精神障害

- 1) アルツハイマー病、レビー小体型認知症、ピック病、血管性認知症、進行麻痺、H I Vでの認知症、クロイツフェルト-ヤコブ病、脳腫瘍、脳炎、頭部外傷など
- 2) 神経学的補助検査、頭部画像検査、脳波、認知機能検査

第4回 症状精神病・アルコールと薬物依存 ※せん妄を含む

第5回 神経症・心因反応 人格障害

- 1) 神経症性障害、心因性精神病、外傷性ストレス反応、心身症
- 2) 人格形成の因子と人格障害の定義
- 3) 人格障害の類型、治療
- 4) 認知療法、行動療法、自律訓練法、森田療法、精神分析法

第6回 児童思春期の精神障害

- 1) 精神遅滞、発達障害、摂食障害など
- 2) 知能検査、人格検査、心理検査
- 3) 心理療法、箱庭療法など

評価方法	筆記試験
科目認定	成績計上の算定割合：科目評価計画参照
備 考	

科 目 番 号	C-51	科 目 名	精神病態看護論			
対 象 学 年	2学年		心理療法			
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 驗	有			
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 8 時間)			
科 目 の 目 的	精神疾患と精神障害についての病態・診断・治療を理解する。					
<授業の概要>						
精神疾患・および精神障害に対する心理テストならびに心理療法について学習する						
関 連 既 習 科 目	精神看護学概論					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学展開 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1回 心理検査について						
第2回 心の動きと心理療法について						
第3回 認知行動療法を学ぶ①						
第4回 認知行動療法を学ぶ②						
評価方法						
筆記試験						
科目認定						
成績計上の算定割合：科目評価計画参照						
備 考						

科 目 番 号	C-51	科 目 名	精神病態看護論			
対 象 学 年	2学年		作業療法			
担 当 講 師	院外講師	実 務 経 験	有			
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 9 時間)			
科 目 の 目 的	精神疾患と精神障害についての病態・診断・治療を理解する。					
<授業の概要>						
精神疾患および精神障害に対する作業療法 レクリエーションの企画、運営のヒントと実践 人間関係トレーニング						
関 連 既 習 科 目	精神看護学概論					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学展開 医学書院					
<授業の展開及び内容>						
第1回 作業療法とは（他職種の理解とリハビリテーション）						
第2回 治療的レクリエーションの考え方とプランニング						
第3回 レクリエーションの実践とシェアリング						
第4回 集団の捉え方とリーダーシップの発揮						
評価方法						
筆記試験						
科目認定						
成績計上の算定割合：科目評価計画参照						
備 考						

科 目 番 号	C-52	科 目 名	精神看護援助論 疾患別、主要症状別看護		
対 象 学 年	2学年	実 務 経 験	有		
担 当 講 師	院外講師	単 位 (時間数)	1単位 (30時間のうち15時間)		
開 講 学 期	後 期	治療的な人間関係の意義、関係の成立と発展の過程や精神障害によってたらされる様々な変化やその影響を理解し、必要な看護援助の知識・技術を習得する。			
<授業の概要>					
精神を障害された個人とその家族への接近方法や援助について、臨床の実際を交えながら講義する。					
関 連 既 習 科 目	精神看護学概論、精神病態看護論				
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学展開 医学書院				
<授業の展開及び内容>					
第1～3回 主な症状の看護 思考の障害・感情の障害・意欲の障害・知覚の障害・意識の障害・記憶の障害 局在症状					
第4～5回 精神障害者の看護 ① 統合失調症患者の看護 (陽性症状・陰性症状に対する看護) ② 気分(感情)障害患者の看護 ③ 神経症性障害患者の看護 (神経身体症状に対する看護) ④ 摂食障害患者の看護 ⑤ 精神作用物質使用による精神および行動の障害患者の看護 ⑥ 人格障害患者の看護 (逸脱行動等に対する看護)					
第6回 回復の支援と地域における支援 治療の場におけるリカバリーと看護の支援 回復のためのプログラム 地域における生活支援の方法 (地域生活を支えるシステムと社会資源)					
第7回 事例演習 グループワーク					
評価方法 筆記試験、出席状況にて総合的に判定する					
科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照					
備 考 精神に障害をもつ人の保健、医療、福祉サービスについて理解を深め正しい知識、技術を身につけることにより、精神障害者の良き相談役になれるようになって下さい。					

科 目 番 号	C - 5 2	科 目 名	精神看護援助論 対象の理解と看護の基本 治療・処置別看護
対 象 学 年	2学年	実 務 経 驗	有
担 当 講 師	院外講師	単 位 (時間数)	1 単位 (30時間のうち15時間)
科 目 の 目 的	治療的な人間関係の意義、関係の成立と発展の過程や精神障害によってたらされる様々な変化やその影響を理解し、必要な看護援助の知識・技術を習得する。		

<授業の概要>

精神を障害された個人とその家族への接近方法や援助について、臨床の実際を交えながら講義する。

関連既習科目	精神看護学概論、精神病態看護論
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学展開 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1～2回

患者理解のための介入方法

- ① 観察
 - ・患者の精神機能の観察方法
 - ・観察視点（日常生活行動、知覚・認識、記憶・見当識、言動、対人関係、社会活動、生活態度）

② 記録

第3～4回

看護場面の再構成(プロセスレコードの活用) 講義・演習

- ① 事実の振り返り
 - ・場面の切り取り
 - ・患者の会話を中心に客観的な振り返り
 - ・看護者の自己分析と患者の心理的背景や状況分析

第5回

患者家族の理解と援助

- ① 家族システム
- ② 家族の支援

第6～7回

診察・検査および治療に伴う看護

- ① 診察に伴う看護
- ② 検査に伴う看護

- ③ 薬物療法
 - ・病識と服薬管理能力
 - ・服薬の確認と援助 [医療安全の視点]
 - ・副作用と看護 (自律神経障害・錐体外路症状など)
- ④ 痢攣療法
- ⑤ 精神療法
- ⑥ 社会療法
 - ・治療過程における支援
 - ・社会復帰に向けての支援 (S S T含む)

評価方法 筆記試験、レポート、出席状況にて総合的に判定する

科目認定 成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考 精神に障害をもつ人の保健、医療、福祉サービスについて理解を深め正しい知識、技術を身につけることにより、精神障害者の良き相談役になれるようになって下さい。

科 目 番 号	C-53	科 目 名	精神看護方法論演習
対 象 学 年	2学年	実 務 絏 験	有
担 当 講 師	専任教員	単 位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
開 講 学 期	後 期	精神疾患・症状を有する対象の健康問題を解決するための、臨床判断の基礎的能力を習得する。	
科 目 の 目 的			

<授業の概要>

精神看護援助論で学習した内容を活かし、精神疾患を有する患者の看護を実践するための情報収集・アセスメント・看護計画立案のプロセスの視点について理解する。

看護過程のプロセスを活用と臨床推論モデルに基づき、現在出現している現象と今後予測される様々なリスクについて、疾患（症状）・治療・ステigmaなどの影響の視点から多角的に捉え判断し、必要な看護を導くことを目標とする。

関連既習科目	精神看護学概論、精神病態看護論、精神看護援助論
テ キ ス ト	NANDA-I 看護診断定義と分類 2021-2023 医学書院 系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 〔2〕精神看護の展開

<授業の展開及び内容>

統合失調症（慢性期）の患者の事例を用いた臨床判断

第1回：授業概要の説明・事例提示および情報収集（気づき）

第2回：統合失調症患者の気づきの視点（グループワーク・講義）

第3～5回：解釈（アセスメント）の視点と根拠（グループワーク・講義）

第6回：全体像の把握（関連図）（グループワーク・講義）

第7～8回：反応（実践するための看護計画）および省察の視点

評価方法	グループワークでの事前課題、課題提出状況、授業態度等
科目認定	成績計上の算定割合：100点満点
備考	

科 目 番 号	C-56	科 目 名	災害看護 I
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	専任教員	実 務 経 験	有
開 講 学 期	後 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科 目 の 目 的	災害看護を身近に捉え、基礎的知識を習得する。		

<授業の概要>

災害発生前後に生じる問題及び看護の役割を理解できるよう学習する。そして、災害看護に関心をもち、災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する。

関 連 既 習 科 目	看護学概論	基礎看護援助論 I ~ V	地域・在宅看護概論
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野	看護の統合と実践〔3〕	災害看護学・国際看護学 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1回 1. 災害看護の基礎的知識

- 1) 災害看護のあゆみ
- 2) 災害・災害看護の定義
- 3) 災害の種類と被害の特徴
- 4) 災害に関する法規

第2回 2. 災害医療の特徴

- 1) CSCATT
- 2) 災害サイクルと災害看護サイクル
- 3) 各期の看護活動と必要なケア

第3～5回 3. 地域に必要な防災（グループワーク）

- 1) 地域アセスメントの必要性
- 2) 地域アセスメント
- 3) 災害時要配慮者

第6～7回 4. 自らできる防災について

- 1) 防災リュックの作成
- 2) 災害要支援者へ対応

評価方法

演習の参加状況、課題、授業態度、筆記試験をもとに総合的に評価する

科目認定

成績計上の算出割合：科目評価計画参照

備考

近年、全国的に災害が頻発しており、災害看護における看護師の役割の重要性は高まっている。今後も起こり得る災害に向けていつでも対応できるよう看護師としての役割を理解しておくことが重要である。日頃から看護学生として、地域にも目を向けて災害対策を考えてほしい。

科 目 番 号	C-59	科 目 名	医療安全Ⅱ
対 象 学 年	2学年	実 務 経 験	有
担 当 講 師	院内講師		
開 講 学 期	前 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
單 元 の 目 的	事故事例の原因・要因分析を通して、医療安全確保のための知識・態度を習得する。		

<授業の概要>

医療の現場で起こった事故事例をもとにグループワークを行い、理解を深める。また、事故発生状況をシミュレーションすることで、どう行動すればよいかを考える。

関連既習科目	心理学、倫理学、看護学概論、医療安全Ⅰ
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1～2回 療養上の世話の事故と安全対策

第3～4回 診療の補助の事故と安全対策

第5回 医療安全とコミュニケーション

第6～7回 事故原因分析 (RCA)

評価方法

筆記試験

科目認定

成績計上の算定割合：科目評価計画参照

備 考

事故が発生した場合、どのように対応して行動するかが重要となる。「患者様を守り、自分自身を守ること」が大切である。「安全な医療を提供し、信頼される医療者」を目指して、看護専門職者として、どのように行動しなければならないか、共に学習していきましょう。

科 目 番 号	C-60	科 目 名	看護の統合と実践Ⅰ 看護研究の実際
対 象 学 年	2学年		
担 当 講 師	教育主事	実 務 経 験	有
開 講 学 期	後 期	単位 (時間数)	1 単位 (15 時間)
科 目 の 目 的	看護研究の必要性と意義を理解し、看護研究の基礎を学ぶ。 看護研究を通して、基礎的知識、研究的态度を学ぶ。		

<授業の概要>

実践した看護を論文にまとめ、看護観の育成を図るために、看護研究に必要な基礎的知識、研究的态度を学ぶ。

関 連 既 習 科 目	看護学概論
テ キ ス ト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

<授業の展開及び内容>

第1回 看護研究とはなにか

第2回 看護研究の進め方

第3回 文献検索の方法

第4回 看護研究における倫理

第5回 研究デザインと研究計画書

第6回 研究データとその分析

第7回 論文の書き方・発表方法

評価方法 筆記試験

科目認定 成績計上の算定割合：100点満点

備 考 疑問を感じる感受性と疑問を追及しようとする力を意識して、授業に臨んでください。この研究で学んだ基礎的知識・態度が3年次のケーススタディ（事例研究を一人1事例としてまとめて発表）につながります。基本的な知識を自分のものにしておきましょう。